

相生歴史マップ資料8 おおさけ 大避神社

はたかわかつ 秦河勝を祀る大避神社は赤穂郡に多くあり、相生市内でも那波から三濃山まで広く分布しています。その一つが下土井大避神社です。下土井は矢野荘の中心部で管理機関がおかれていました。

下土井大避神社は、矢野荘の鎮守として人々の信仰をあつめてきました。中世、農民の寄り合いが開かれる場となり「東寺百合文書」にたびたび登場します。矢野と若狭野の谷間の水を集めて流れる矢野川が、北からの流れを大きく西へかえるあたりの西北の山麓に、東向きに大避神社の境内があります。

「東寺百合文書に記された名主、実円、実長父子と領主東寺の協調と対立の推移を読みます。

①1335（建武2）年 東寺と有力農民の協調

「建武の始め、あの法念余党が大勢を率いて矢野荘に打ち込んだ時、東寺から南端殿・阿波律師御房が矢野荘に派遣されました。御要害を大避殿山上に構えて幾度も合戦されました。私の父、実円は東寺に味方し、身命を捨てて昼夜の合戦に加わりました。」

皇室から寄進を受けた東寺は矢野荘の支配権の確立をめざし、悪党寺田ほうねん法念と戦いました。悪党とは歴史用語で「幕府や荘園領主に反抗する集団」を指し、楠木正成は和泉の悪党です。このとき有力農民の実円は東寺に協力し、名田拡大に成功します。

②1369(応安2)年 東寺が農民指導者を警戒

「東寺領矢野荘西方上村（現矢野町）名主・百姓等が畏みて申し上げます。矢野荘真末名の名大藤内三郎の訴えに依り、実円を荘園から追放せよという命令書が下されました。しかし、実円には上洛できない事情があります。」

この文書の伝える真相をめぐり、研究者は「十三日講事件」と呼ばれる論争を繰り広げました。東寺代官佑尊が農民の指導者実円を追放しようとした策謀であると考察されています。

③1377年（永和3年 東寺に対して農民が一揆を起こす

「惣荘五十余名、名主数十人が一味同心し連判を以て訴えでようとするとき、どうして私一人が異議をなすことができるでしょうか。もし、村の決定である惣庄一揆に背いたならば、たちまち皆から罰せられてしまいます。そこで、一旦の難を逃れんがため、本意ではありませんでしたが、連判状に加わっただけでございます。」

この文書は東寺から1377年矢野荘で起こった大規模な一揆の指導者とみなされた実長が提出した弁明書です。室町時代になり、惣村が水利や農作業で協力し自治を強めると、農民は領主と対立し、逃散や一揆で抵抗するようになりました。



大避神社拝殿



拝殿に奉納された絵馬

参考

- ・松本恵司『相生若狭野 旗本浅野陣屋 礼座保存プロジェクト』（浅野陣屋礼座保存ネットワーク、2016年）
- ・相生市史編纂専門委員会編『相生市史 第一巻』（兵庫県相生市・相生市教育委員会、1984年）